

石田横穴墓群

一般国道57号大野竹田道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

2017

大分県教育庁埋蔵文化財センター

序 文

本書は大分県教育委員会が国土交通省九州地方整備局佐伯国道河川事務所の依頼を受けて、平成25年度及び平成27年度に一般国道57号大野竹田道路建設工事に先立って実施した石田横穴墓群の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する朝地町板井迫では平井川の段丘上には弥生時代の集落遺跡である下野遺跡が、北側の斜面地には石田横穴墓群をはじめ姉井迫横穴墓群、狐迫横穴墓群などが築かれています。

石田横穴墓群の発掘調査では横穴墓と中世の竈等が見つかっており、多くの横穴墓が存在する当地域での古墳時代や中世の人々の生活を少しでも明らかにすることができたのではないかと考えます。

発掘調査の実施にあたり御協力をいただいた地元教育委員会をはじめ地域の方々に対しまして、心よりお礼申し上げます。

平成29年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所長 後 藤 一 重

例 言

- 1 本書は大分県豊後大野市朝地町大字板井迫字石田に所在する石田横穴墓群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、一般国道57号大野竹田道路建設工事に伴い、国土交通省九州地方建設局佐伯国道河川事務所の依頼を受けて、大分県教育庁埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 石田横穴墓群の発掘調査は現地調査を平成25年度と平成27年度に、整理等作業は平成26年度と平成28年度に実施し、松本が担当した。
- 4 現地での写真撮影・遺構実測は、平成25年度には㈱島田組、平成27年度には㈱九州文化財総合研究所に委託した。
- 5 遺物実測・トレースに伴う諸作業については、㈱九州文化財総合研究所に委託したほか、調査員・大分県教育庁埋蔵文化財センター職員・嘱託が行った。
- 6 出土遺物ならびに写真・図面等は大分県教育庁埋蔵文化財センター（大分市牧緑町1-61）において、保管している。
- 7 本書で使用する方位はいずれも真北である。座標値については、世界測地系の数値を用いている。
- 8 遺構図は $S=1/50$ 、遺物（土器・石器・鉄製品）は $S=1/3$ の縮尺を基本としている。
- 9 本書の執筆・編集は、松本が行った。

目 次

第1章	はじめに	
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	発掘作業の経過	1
第3節	整理作業の経過	1
第2章	遺跡の位置と環境	
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	石田横穴墓群調査の内容	
第1節	調査の方法	5
第2節	石田横穴墓群1次調査の内容	6
第3節	石田横穴墓群2次調査の内容	7
第4章	小結	17
	写真図版	19

挿図目次

第1図	一般国道57号大野竹田道路建設工事箇所と調査遺跡	2
第2図	石田横穴墓群の位置と周辺環境	4
第3図	石田横穴墓群の調査範囲	5
第4図	石田横穴墓群1次調査全体図	5
第5図	石田横穴墓群1次調査S-001実測図	6
第6図	石田横穴墓群1次調査S-001及び周辺出土遺物実測図	7
第7図	石田横穴墓群2次調査全体図	8
第8図	石田横穴墓群2次調査S-001実測図	8
第9図	石田横穴墓群2次調査S-002実測図	9
第10図	石田横穴墓群2次調査S-003実測図	9
第11図	石田横穴墓群2次調査S-004実測図	11
第12図	石田横穴墓群2次調査S-005実測図	12
第13図	石田横穴墓群2次調査S-006実測図	12
第14図	石田横穴墓群2次調査S-007実測図	12
第15図	石田横穴墓群2次調査S-008実測図	13
第16図	石田横穴墓群2次調査S-009実測図	13
第17図	石田横穴墓群2次調査S-010実測図	13
第18図	石田横穴墓群2次調査出土遺物実測図1	14
第19図	石田横穴墓群2次調査出土遺物実測図2	15
第20図	石田横穴墓群2次調査出土遺物実測図3	16
第21図	石田横穴墓群周辺逆修塔実測図	18

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

中九州横断道路は、平成5年度に計画路線に指定され、翌年、犬飼千歳道路が事業化された。平成10年度に千歳大野道路を着工し、平成17年度に犬飼千歳道路の犬飼ICから千歳IC間が開通し、翌18年度に千歳大野道路の千歳ICから大野IC間が開通した。中九州横断道路の一部である一般国道57号大野竹田道路は、平成19年度に事業着手し、同年6月と12月に埋蔵文化財センターが分布調査を行い、16箇所を試掘確認調査の対象とした。平成20年4月から平成25年2月にかけて試掘確認調査を実施した結果、加原遺跡、古市下・古市上遺跡、石田横穴墓群の3箇所で大調査が必要と判断した。

加原遺跡は平成21年度～平成24年度まで4次にわたり調査を実施し、縄文時代から中世に至る各時代の遺構・遺物が確認されている。なかでも古代の遺構・遺物は、当地域ではこれまで類例のない「官衙」を彷彿させるものであった。平成22年度に調査した古市下・古市上遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡、中世の溝に区画された館跡を確認している。

第2節 発掘作業の経過

石田横穴墓群は平成24年度に一般国道57号大野竹田道路建設工事に伴う分布調査の結果、道路部分にかかることが判明したため、平成25年9月と平成27年10月～11月に本調査を実施した。

平成25年度調査

調査期間：平成25年9月13日～平成25年9月27日

調査面積：345㎡

事業主体：国土交通省佐伯国道河川事務所

調査主体：大分県教育委員会

調査組織（役職は当時）

総括 宮内克己（大分県教育庁埋蔵文化財センター所長）

調査主任 小柳和宏（大分県教育庁埋蔵文化財センター参事兼受託事業班総括）

調査担当 松本康弘（同 一般事業班主幹）

平成27年度調査

調査期間：平成27年11月5日～平成27年12月7日

調査面積：379㎡

事業主体：国土交通省佐伯国道河川事務所

調査主体：大分県教育委員会

調査組織（役職は当時）

総括 後藤一重（大分県教育庁埋蔵文化財センター所長）

調査主任 小柳和宏（大分県教育庁埋蔵文化財センター次長兼受託事業班総括）

調査担当 松本康弘（同 県事業班主幹）

第3節 整理作業の経過

石田横穴墓群の整理作業は発掘調査の翌年、平成26年度及び平成28年度に遺物の洗浄・注記・接合、実測、トレース、写真撮影を実施した。

平成26年度調査

調査期間：平成26年5月13日～平成27年3月31日

事業主体：国土交通省佐伯国道河川事務所

調査主体：大分県教育委員会

調査組織（役職は当時）

総括 松村洋一（大分県教育庁埋蔵文化財センター所長）

調査主任 小柳和宏（大分県教育庁埋蔵文化財センター参事兼受託事業班総括）

調査担当 松本康弘（同 県事業班主幹）

平成28年度調査

調査期間：平成28年5月10日～平成29年3月31日

事業主体：国土交通省佐伯国道河川事務所

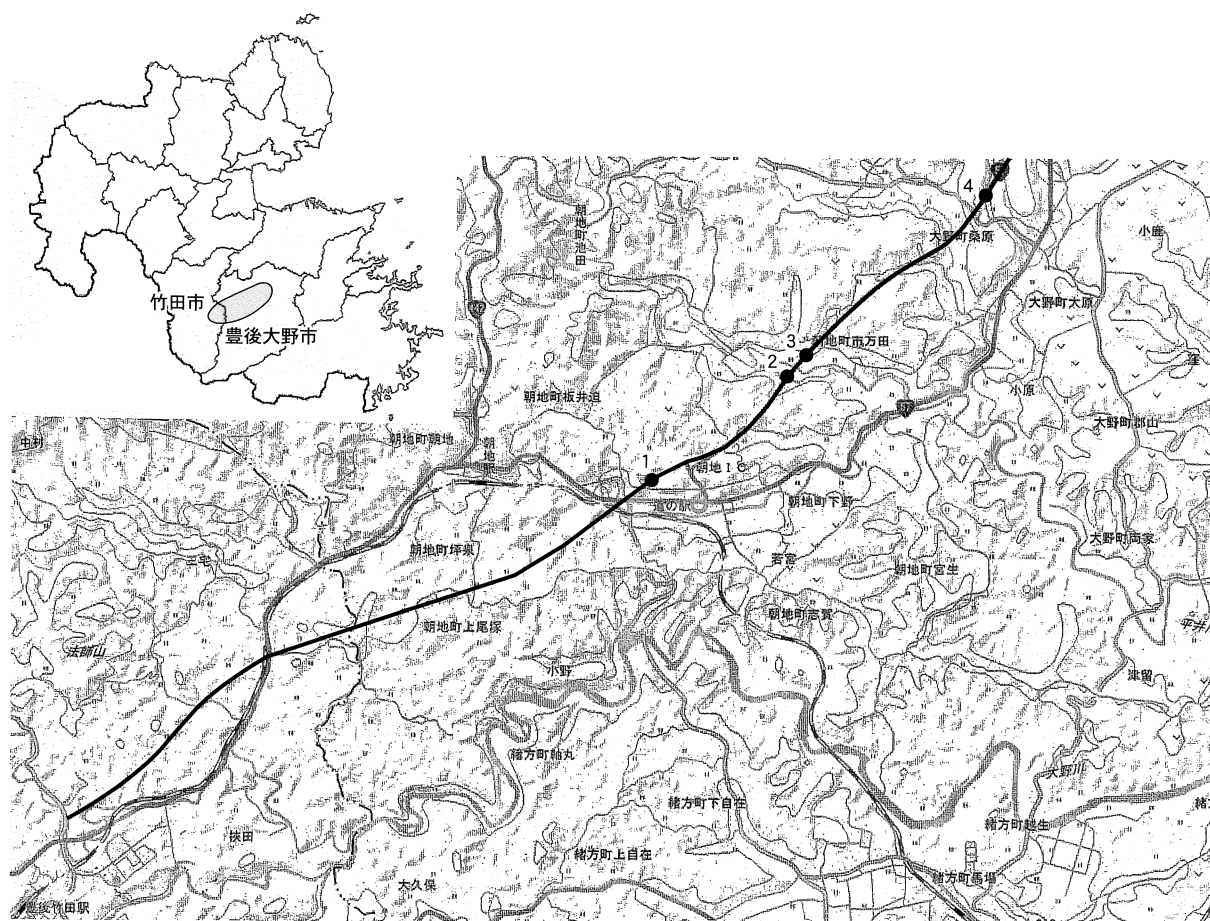
調査主体：大分県教育委員会

調査組織（役職は当時）

総括 後藤一重（大分県教育庁埋蔵文化財センター所長）

調査主任 友岡信彦（大分県教育庁埋蔵文化財センター参事兼受託事業班総括）

調査担当 松本康弘（同 県事業班主幹）



1 石田横穴墓群 2 古市上遺跡 3 古市下遺跡 4 加原遺跡

第1図 一般国道57号大野竹田道路建設工事箇所と調査遺跡(S=1/50,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

遺跡のある豊後大野市朝地町は大野川中流域に位置し、この大野川は、南接する緒方町との境になっている。

地形的には朝地町の北半は城山や男体山、神角寺山等600～700m級の急峻な山々が連なっている。神角寺山は欽明天皇31年に新羅からの渡来僧により創建されたとの伝来を持つ山岳寺院がある。南半は大野川やその支流によって開析された谷部と丘陵部が入り組んだ地形をしている。

第2節 歴史的環境

石田横穴墓群のある平井川流域の主要な遺跡では、まず昭和38年度に日本考古学協会洞穴遺跡特別調査会が調査した縄文時代早期の岩陰遺跡である大恩寺稲荷洞穴がある。ここからは男7体、女1体の埋葬人骨が出ている。平井川の南側は山林に囲まれた朝地町では数少ない平野があり田が広がっている地域で、ここにある下野遺跡では弥生時代の集落跡が確認されている。さらにその背後は尾根が連なり、そこを参勤交代道が東西に走っている。この尾根に沿って高伏古墳、孤迫古墳、丸山古墳等の墳墓が築かれているのは、この尾根上が古墳時代から肥後への重要な交通路となっていたことと関係し、それ以後現代にいたるまで重要な交通路として利用されている。

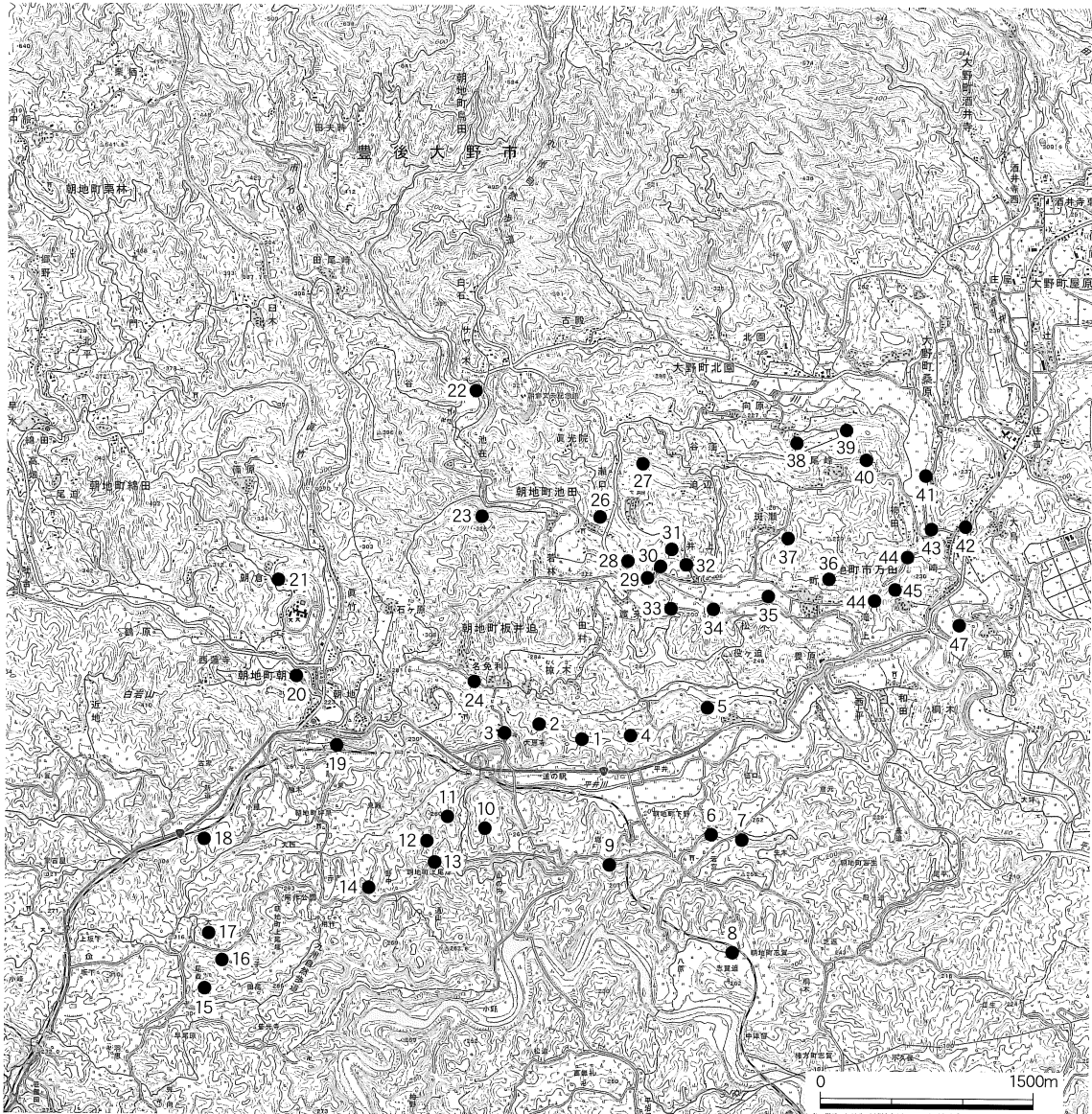
また、平井川の北側は国道57号を越えたところで急に傾斜しており、この斜面で狐迫横穴墓群、姉井迫横穴墓群、石田横穴墓群等多くの横穴墓が確認できる。

平井川の北を流れる市万田川周辺では、旧石器時代のナイフ形石器が出土した田村遺跡を最古とする。その田村遺跡は縄文早期の押型文期の標識遺跡としても知られており、出土した土器は田村式土器として、押型文期後半に編年されている。その他縄文時代遺跡は、早期のシゲツキ遺跡、前期の池在遺跡、後期の田村東遺跡・田村谷遺跡、後晩期の古市遺跡、滝ノ上遺跡があり、縄文時代を通して市万田川周辺での人々の営みがみて取れる。

弥生時代も前期末から中期前半及び後期の土器が数か所の遺跡から出土している。古墳時代では集落跡としてシゲツキ遺跡があり、墳墓では4～5世紀前半代の町1～3号古墳群がある。さらに七崩、田村、向瀬口等の横穴墓も築かれている。

古代の遺跡は少ないが、中世期では田村磨崖仏をはじめ、五輪塔、板碑等中世村落景観をよく残している。このような中世社会を形成したのは大字池田字館に居館を構えた一万田氏である。一万田氏は豊後国守護大友能直の六男景直を祖とし、延応二年(1240)に大野荘上村半分の地頭職を配分され、代々それを相伝している。その地は市万田川流域を中心とした田村名、袴田名等からなる。

一万田氏とほぼ同時期に入部し、大野荘志賀村を所領した志賀氏の居城が大字志賀の丘陵上にある。志賀氏は初代から三代までここを居城としているが、その後岡城に移る。



- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1 石田横穴墓群(古) | 17 大塚古墳(古) | 33 宮田遺跡(中) |
| 2 大恩寺稻荷洞穴(縄) | 18 久保古墳(古) | 34 田村横穴墓群(古) |
| 3 中江遺跡(弥) | 19 草木洞穴(縄) | 35 七崩横穴墓群(古) |
| 4 姉井迫横穴墓群(古) | 20 近地城跡(中) | 36 町遺跡(弥) |
| 5 狐迫横穴墓群(古) | 21 朝倉遺跡(弥) | 37 古市遺跡(中) |
| 6 若宮古墳(古) | 22 池在遺跡(縄・弥) | 38 宮迫遺跡(縄) |
| 7 若宮遺跡(弥) | 23 ナメリ遺跡(弥) | 39 尾峰遺跡(旧・弥生) |
| 8 志賀城跡(中) | 24 大戸横穴墓(古) | 40 地神原古墳(古) |
| 9 高城城跡(中) | 25 向瀬口横穴墓(古) | 41 袴田横穴墓(古) |
| 10 高伏古墳(古) | 26 シゲツキ遺跡(縄・古) | 42 小畑横穴墓群(古) |
| 11 狐迫古墳(古) | 27 一万田館跡(中) | 43 町古墳群3号墳(古) |
| 12 丸山古墳(古) | 28 田村遺跡(旧・縄) | 44 町古墳群2号墳(古) |
| 13 銭蓋石棺(古) | 29 田村東遺跡(縄) | 45 町古墳群1号墳(古) |
| 14 用作遺跡(古) | 30 谷遺跡(縄・中) | 46 滝ノ上遺跡(縄・弥) |
| 15 有緑寺古墳(古) | 31 不動院遺跡(縄・近) | 47 小牟礼城跡(中) |
| 16 小森古墳(古) | 32 下津留遺跡(古・中) | |

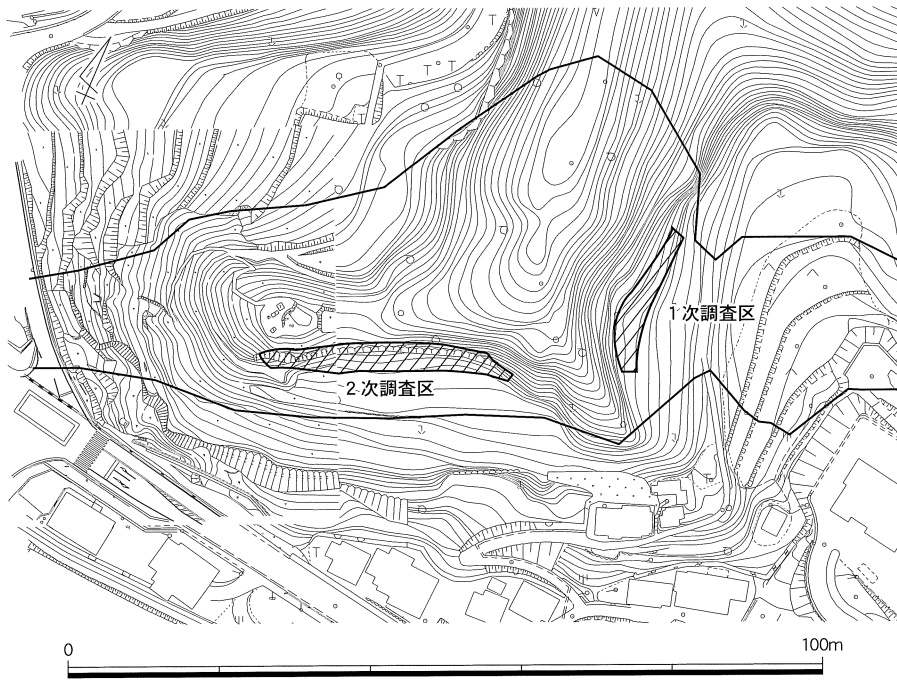
第2図 石田横穴墓群の位置と周辺環境(S=1/25,000)

第3章 石田横穴墓群調査の内容

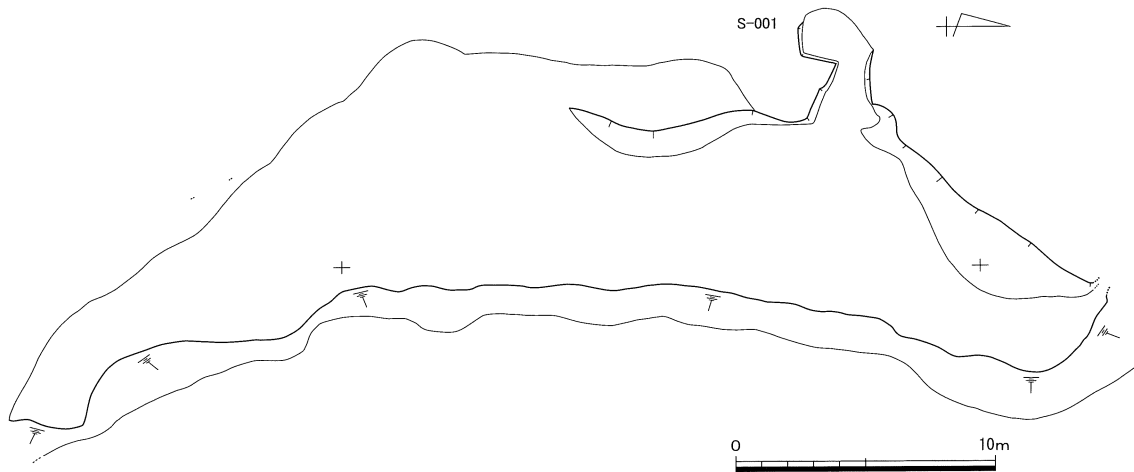
第1節 調査の方法

調査区内には世界測地系の座標にそって、10m方眼のグリッドを設定し、第7図に示すように、北からA～Cのアルファベット、東から1～8の数字を付した。遺構番号は検出した順に付した。

1次調査区は、表土層を人力で除去した後、その下で確認できる遺構検出を行った。2次調査区は、表土層をバックホウで除去した後、その下で確認できる遺構検出、遺構掘削を行った。



第3図 石田横穴墓群の調査範囲(S=1/1,000)



第4図 石田横穴墓群1次調査全体図(S=1/300)

第2節 石田横穴墓群1次調査の内容

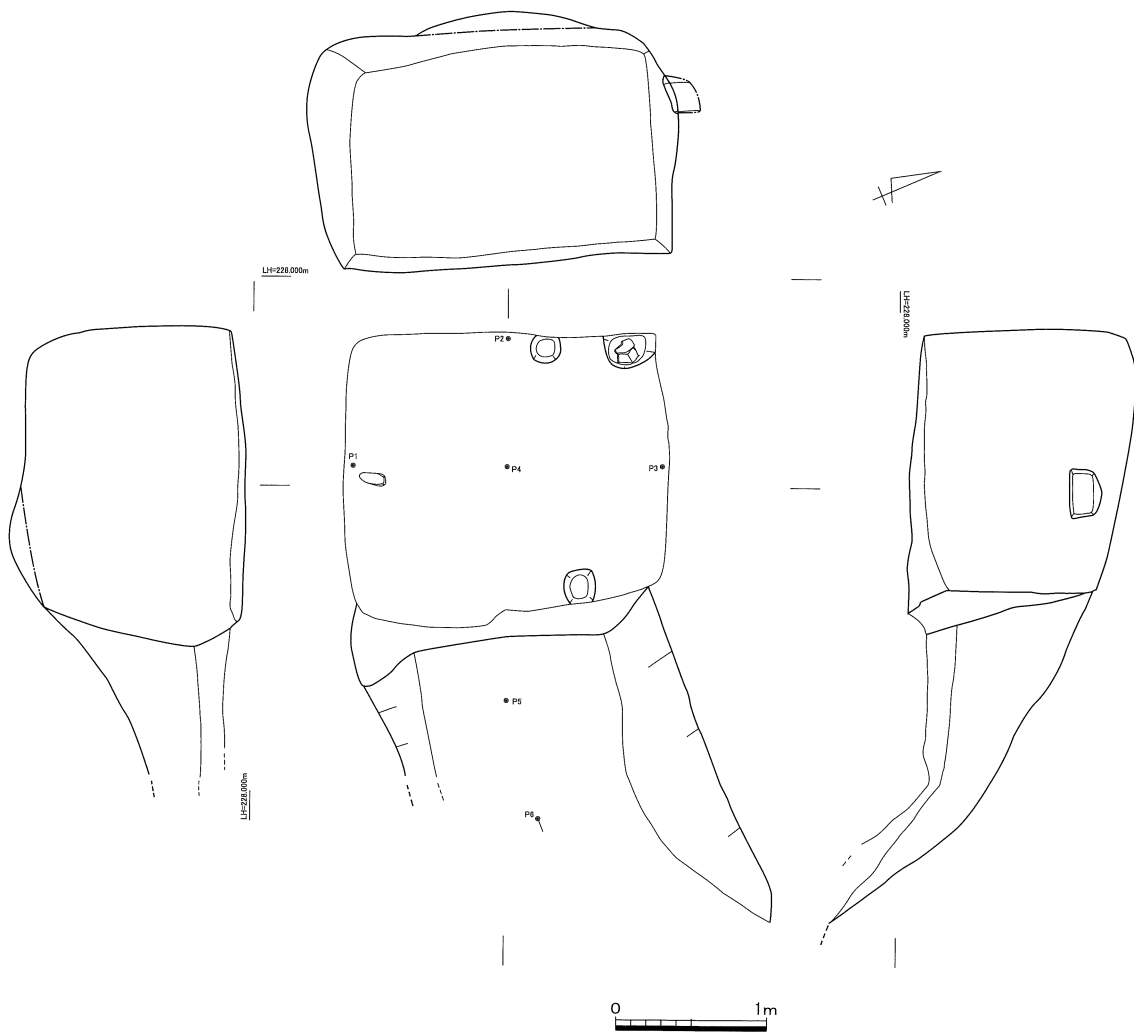
分布調査の際に、石田集落裏の畑の先にある崖面に1基の横穴状遺構（1次調査S-001）が確認されたことで本調査を実施した。遺構周辺の表土を人力で除去した後、遺構内部及び前面の掘削を行い、遺物及び柱穴等を検出した。

S-001（第5・6図）

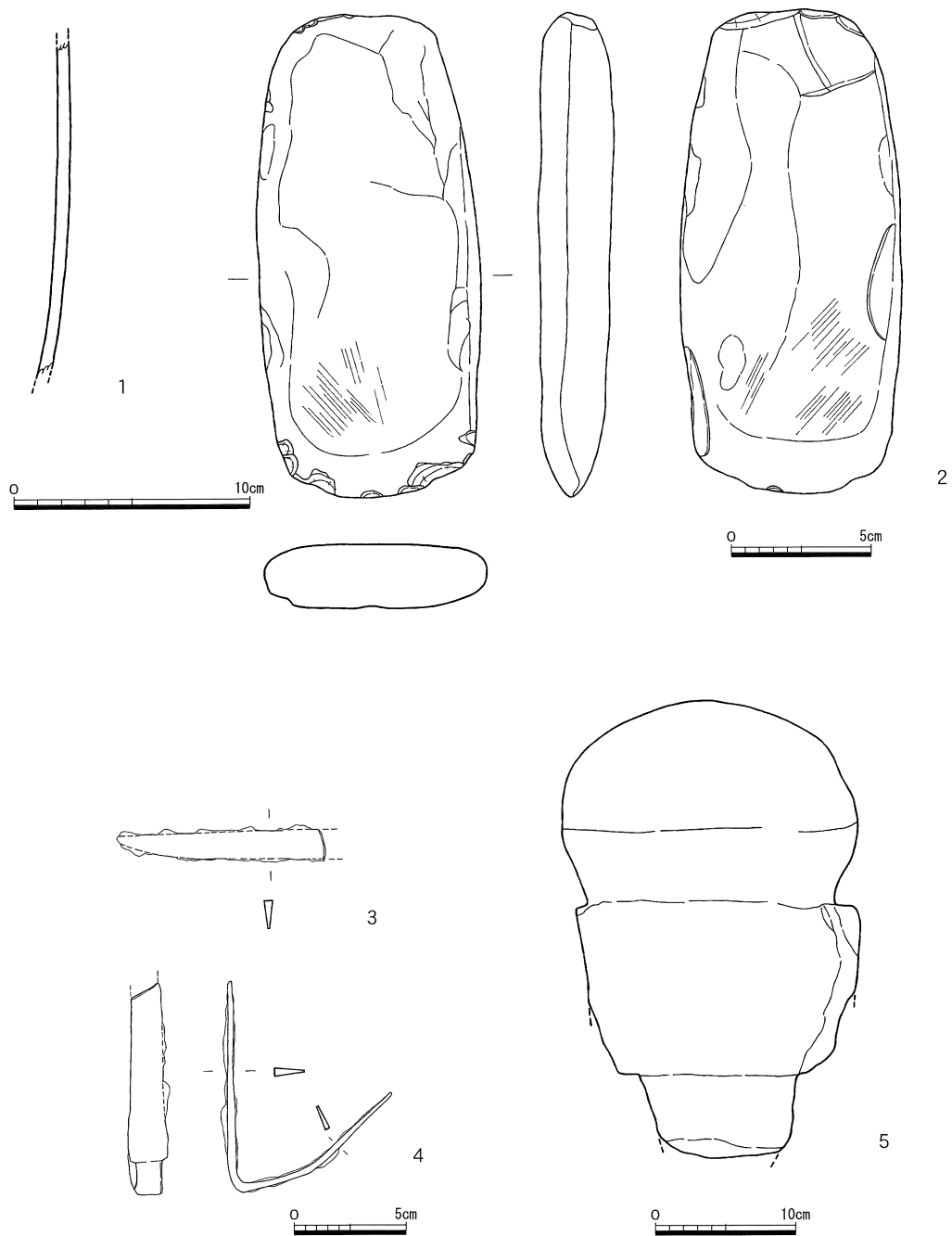
遺構の床面平面形状は方形で、幅2.20m、奥行2.00mを測る。天井部の高さは手前側が1.30m、奥が1.5mである。開口部は羨道より0.3mほど下がっている。床面レベルは228.1mである。

内部は土砂が0.2mほど堆積しており、それを除くと床面には3箇所浅い柱状の掘込みがあった。北西隅の掘込みは幅0.35m、奥行0.23m、深さ0.20mの楕円形をしており、そこから陶器鍋片が出土した。また、北側壁面からは幅0.35m、高さ0.25m、奥行0.18mの掘込みが確認できた。

遺物は、柱穴内で陶器鉢片(1)が出土したほか、南側床面から磨製石斧(2)、羨道部の表土に近い上層で刀子(3)と筭・(4)が出土している。その他、周辺の崖面で五輪塔の空風輪(5)が1点表採できた。これらより、開口時期は古墳時代まで遡る可能性はあるが、中近世以降、龕として再利用されたものとする。



第5図 石田横穴墓群1次調査S-001実測図(S=1/50)

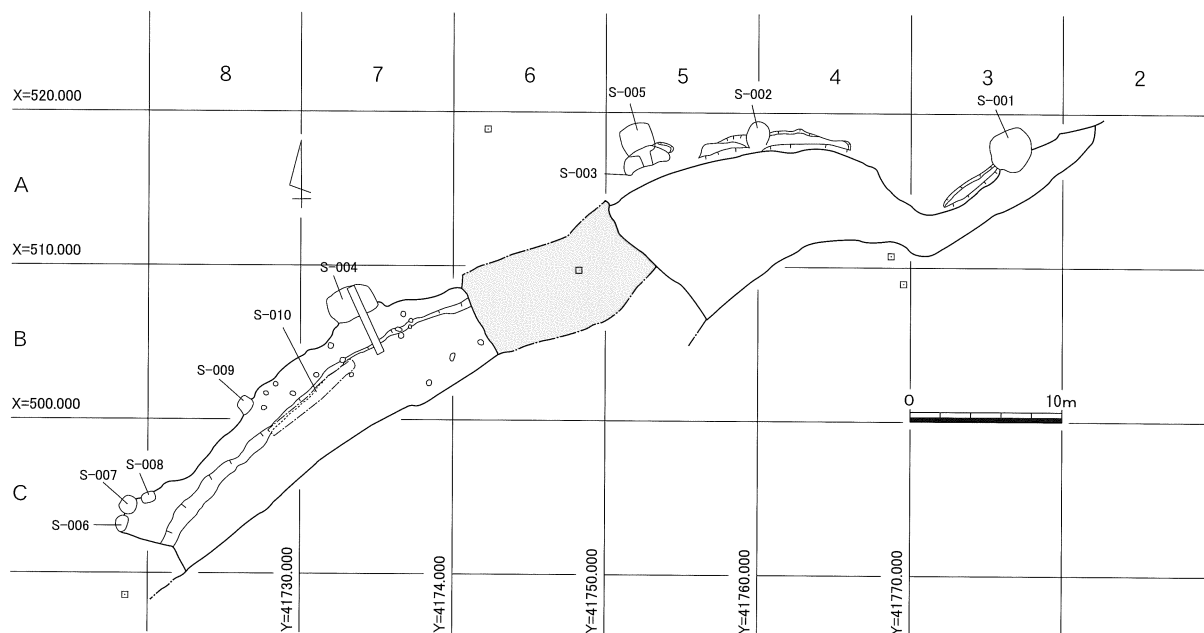


第6図 石田横穴墓群1次調査S-001及び周辺出土遺物実測図(S=1/3, 1/5)

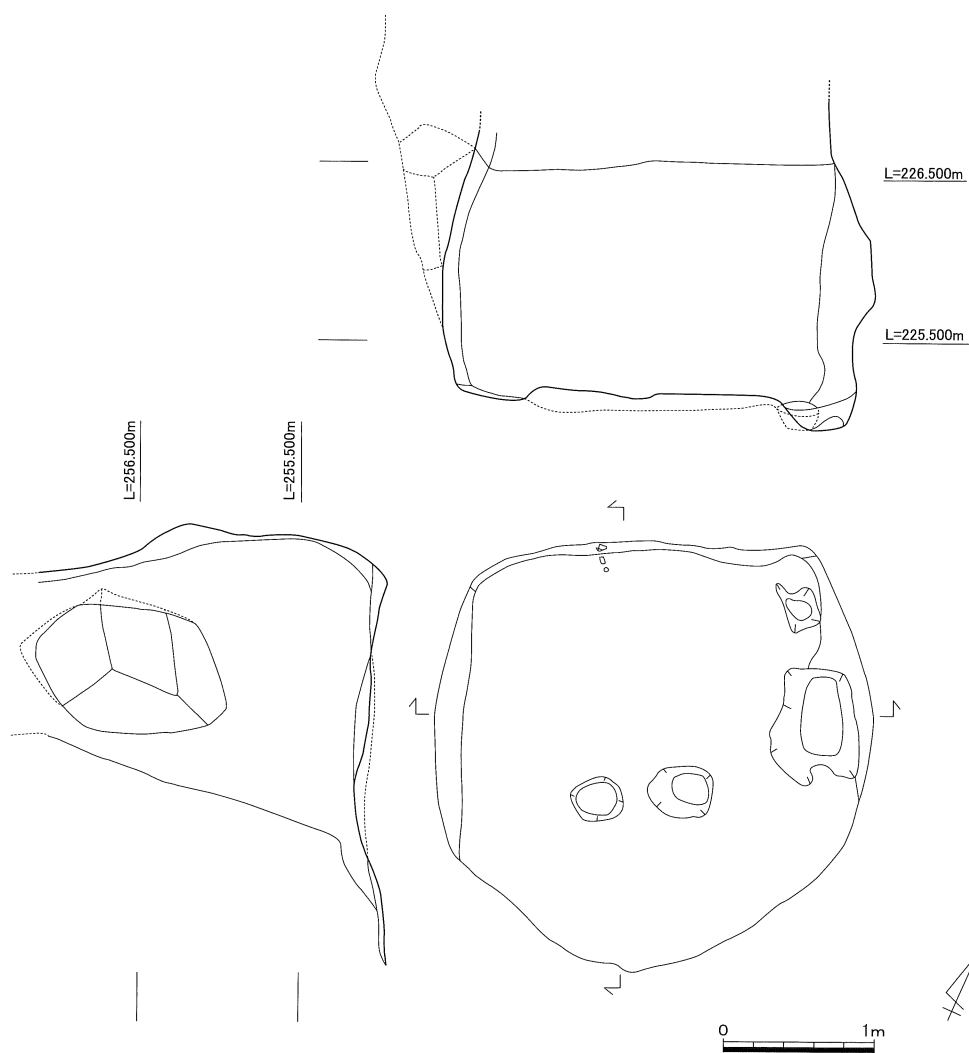
第3節 石田横穴墓群2次調査の内容

分布調査の際に、石田集落裏の崖面で1基の横穴墓（2次調査S-004）が確認された。平成27年度の本調査では、バックホウで横穴墓周辺の表土を除去したところ、それ以外にも数基の横穴状の遺構が確認できたので、人力で遺構内部及び前面の掘削を行った。調査区中央部は幅10mにわたり、表土層の崩落が認められ、危険回避のため調査区から外した。

その結果、1基の横穴墓と8基の横穴状遺構及び1基の道状遺構を検出した。



第7図 石田横穴墓群2次調査全体図(S=1/200)

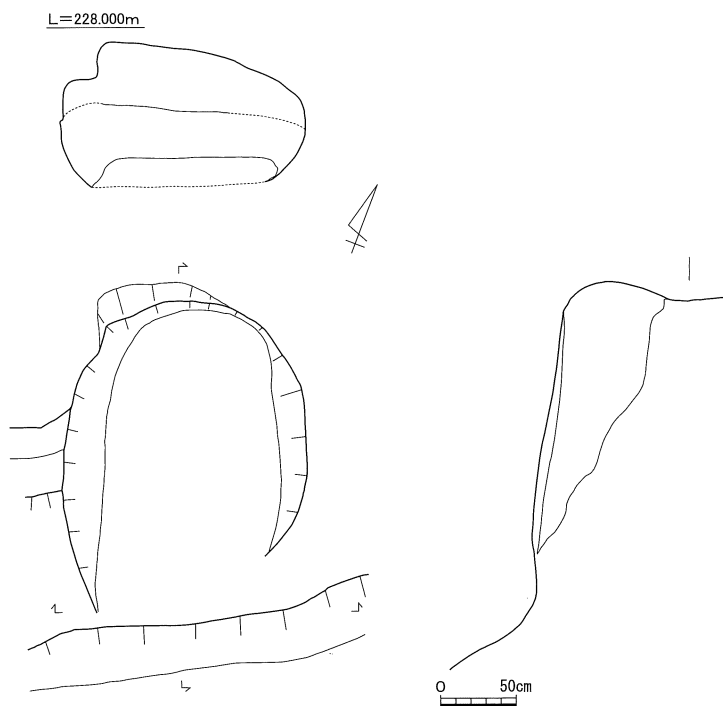


第8図 石田横穴墓群2次調査S-001実測図(S=1/50)

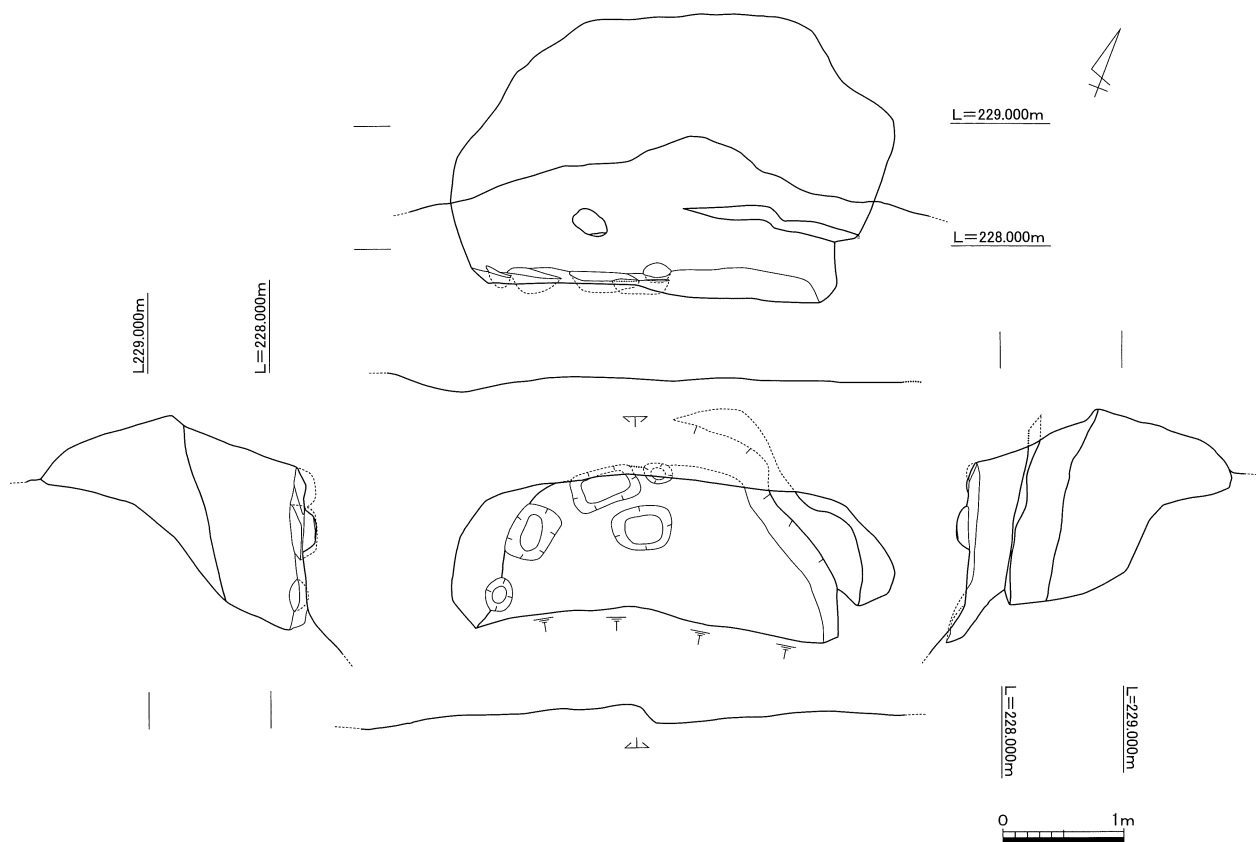
S-001 (第8・18図)

2次調査区S001遺構の床面の平面形状は隅丸方形で、幅2.7m、奥行2.6mを測る。天井の高さは奥壁で1.4mほど残っている。床面には浅い不整形な掘込みが4箇所見られた。床面レベルは225.04mである。

遺物はいずれも奥中央部の床面近くから出土している。
 6は花文の染付碗で、器高6.6cm、復元口径は11.0cm。18世紀後半の肥前系磁器である。7の敲石は安山岩製、大きさは5cm程度、重さ159g。
 8は砥石である。



第9図 石田横穴墓群2次調査S-002実測図(S=1/50)



第10図 石田横穴墓群2次調査S-003実測図(S=1/60)

S-002 (第9図)

遺構の床面平面形は楕円で、幅1.47m、奥行1.81mを測る。高さは奥壁で0.6mほど残っていた。開口部に向かって床は傾斜しており、床面レベルは227.01m～227.25mである。特に遺物は出土していない。

S-003 (第10図)

S-003遺構の床面平面形は半円形に近く、規模は幅2.73m、奥行1.35m、高さ2.1mである。床面で浅い不整形な掘込みが5箇所確認できた。北東壁に奥行0.15mほどの段が付けられていた。床は前面に向かって若干傾斜しているがほぼレベルは227.73mである。

S-004 (第11・18図)

遺構の床面平面形は長方形で、その規模は幅2.75m、奥行1.83m、天井部の高さは奥壁で1.9m、開口部付近で2.1mである。西側床面から幅0.63m、奥行0.83m、深さ0.76mの方形の掘込みがあり、中には凝灰岩の自然石が入っていた。床面レベルはほぼ平坦で227.95m～228.05mである。

遺物9は型紙刷りの磁器碗で、器高5.9cm、復元口径は11.4cm。10は灰黄色の陶器鍋。11は凝灰岩製の石碑で、中央に「御奉甘並奉田甘」の文字が掘られている。

S-005 (第12図)

S-005は切立つ崖面にあり南に開口する横穴墓である。標高は床面で231.0m、玄室主軸方位はN-18°-Wである。前庭部及び羨門部はなく、羨道・玄室のみ残っている。

羨道は中央部で長さ0.76m、高さ0.60m、玄門幅0.67mである。玄室は長さ1.95m、幅2.10mの方形を呈している。床面は若干の凸凹が認められる。天井はドーム形をしており、四隅からそれぞれ棟の稜線が天井に向かって伸びている。天井までの高さは中央で1.03mである。

羨道及び玄室から時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S-006 (第13図)

2次調査区S-006遺構の床面平面形は横長の楕円形で、その規模は幅1.05m、奥行0.85m、高さは0.6mである。開口部に向かって床面は下がっており、そのレベルは227.35m～227.48mである。特に遺物は出土していない。

S-007 (第14図)

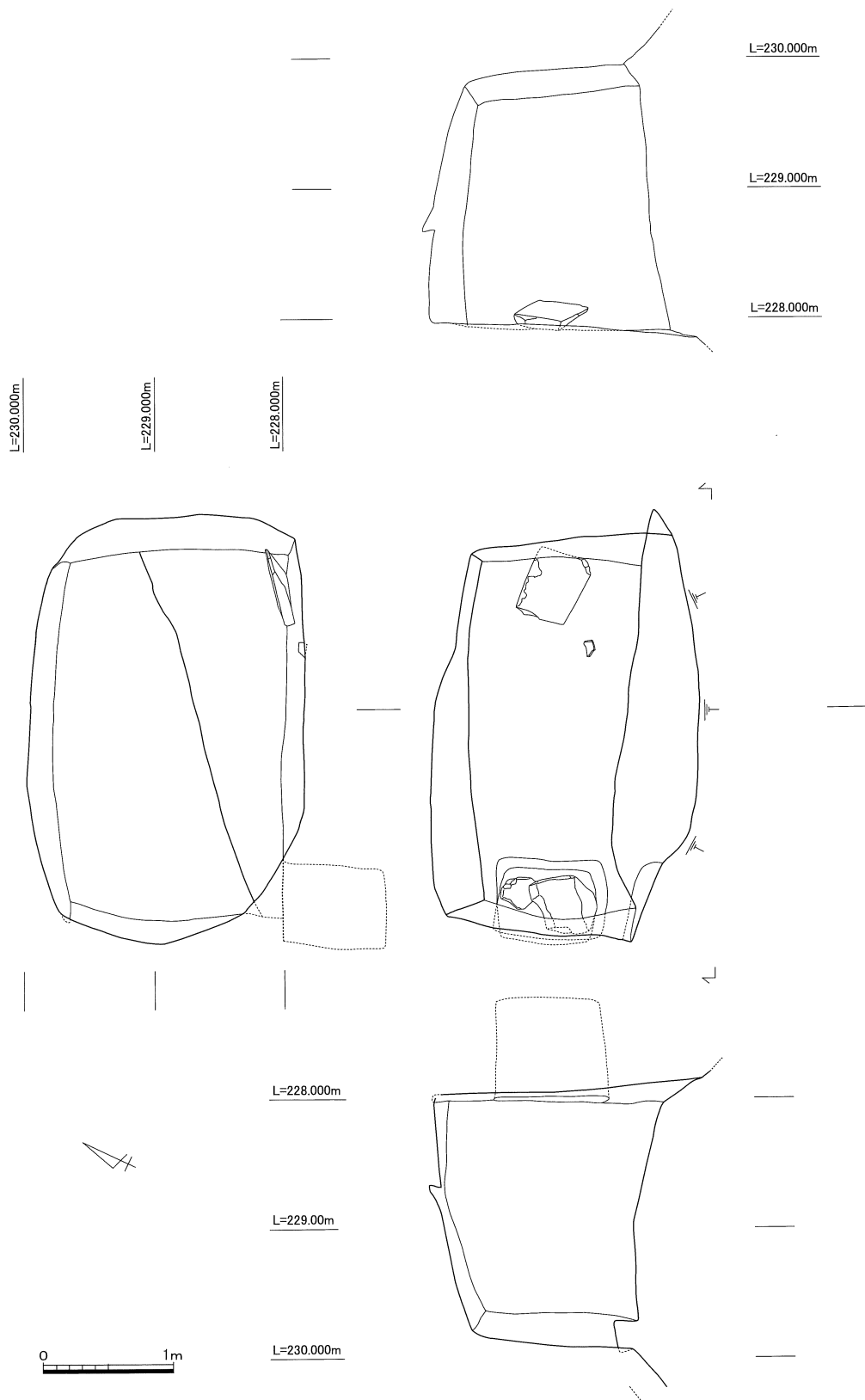
遺構の平面形状はS-006と同じく横長の楕円形で、その規模は幅1.15m、奥行1.0mを測る。高さは0.94mほど残っている。床は中央部が凹んでおり、床面レベルは227.16m～227.38mである。時期の特定できる遺物は出土していない。

S-008 (第15図)

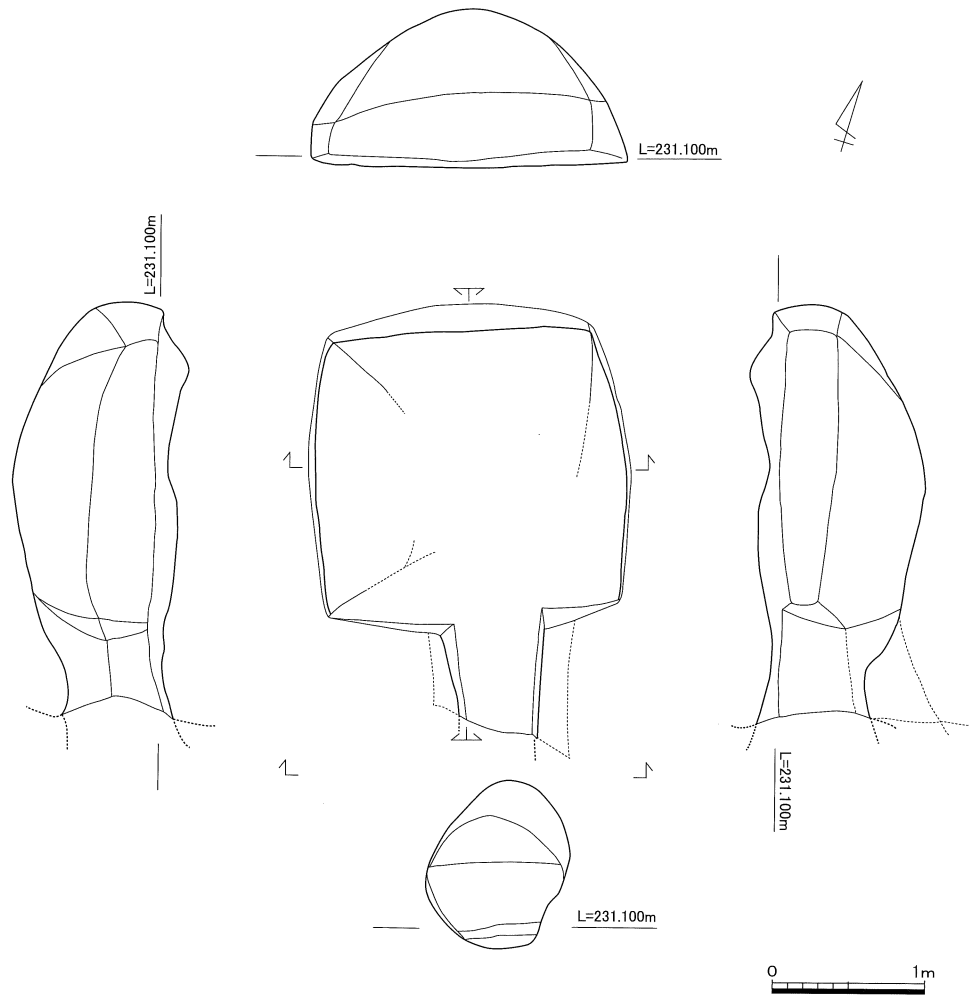
遺構の床面平面形は楕円で、幅0.92m、奥行0.68mを測る。高さは奥壁で0.6mほど残っていた。S-006と同様に、床は中央部が凹んでおり、そのレベルは227.25m～227.32mである。時期の特定できる遺物は出土していない。

S-009 (第16図)

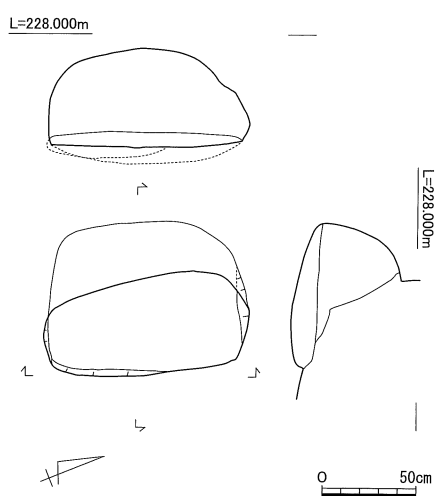
2次調査区S009遺構の床面平面形は隅丸方形、その規模は幅1.06m、奥行1.02m、高さは0.8m程度残っている。床面は開口部より0.25m下がっており、そのレベルは227.09m～227.15mであった。内部より特に遺物は出土しなかった。



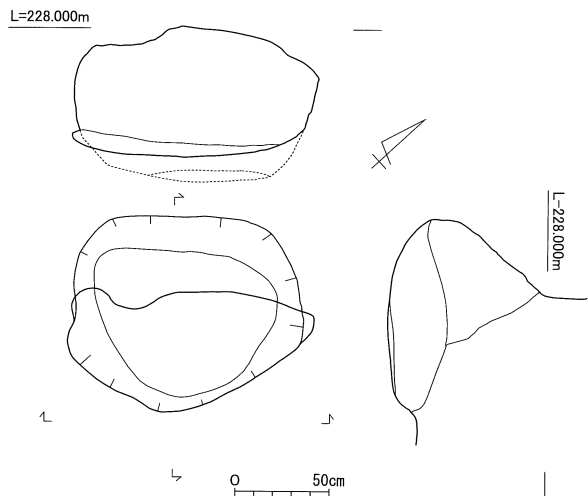
第11図 石田横穴墓群 2次調査S-004実測図(S=1/50)



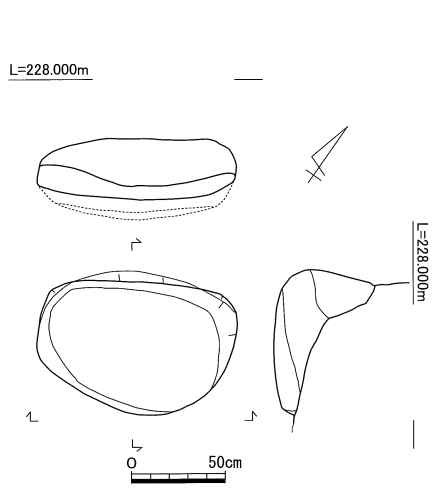
第12図 石田横穴墓群 2次調査S-005実測図(S=1/50)



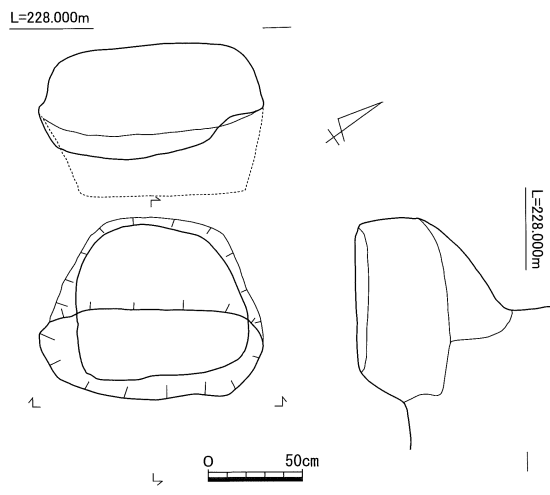
第13図 石田横穴墓群 2次調査
S-006実測図(S=1/40)



第14図 石田横穴墓群 2次調査
S-007実測図(S=1/40)



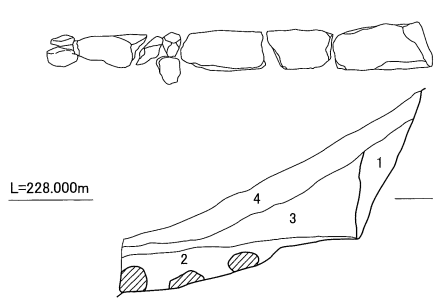
第15図 石田横穴墓群 2次調査
S-008実測図 (S=1/40)



第16図 石田横穴墓群 2次調査
S-009実測図 (S=1/40)



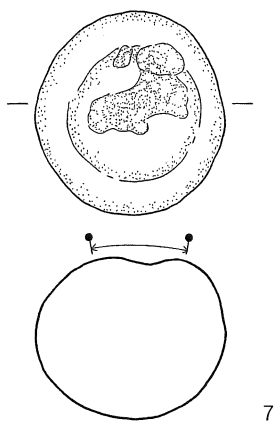
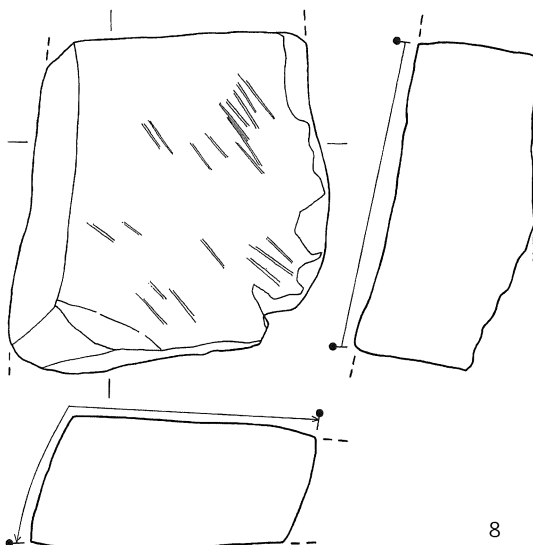
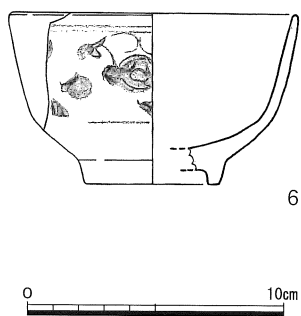
L=228.200m



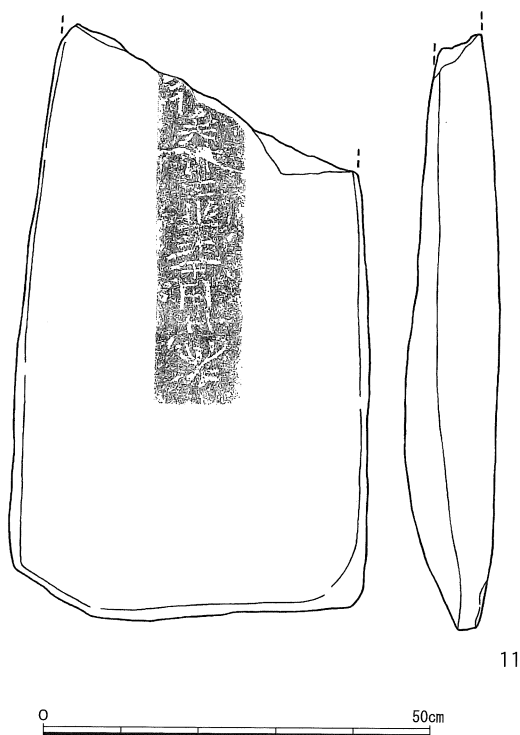
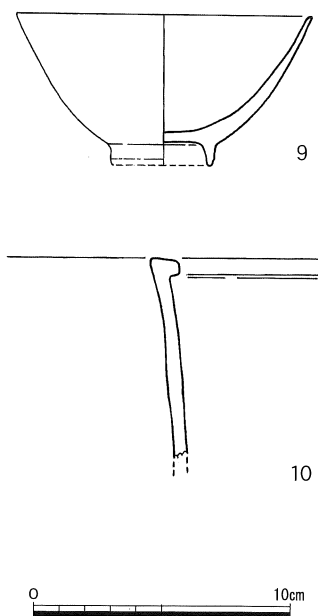
1. 灰色土(凝灰岩を含む)
2. 礫を含む褐色土層(石列の裏打土)…道か?(凝灰岩・砂混)
3. 褐色土
4. 表土 褐色土



第17図 石田横穴墓群 2次調査 S-010実測図 (S=1/60)

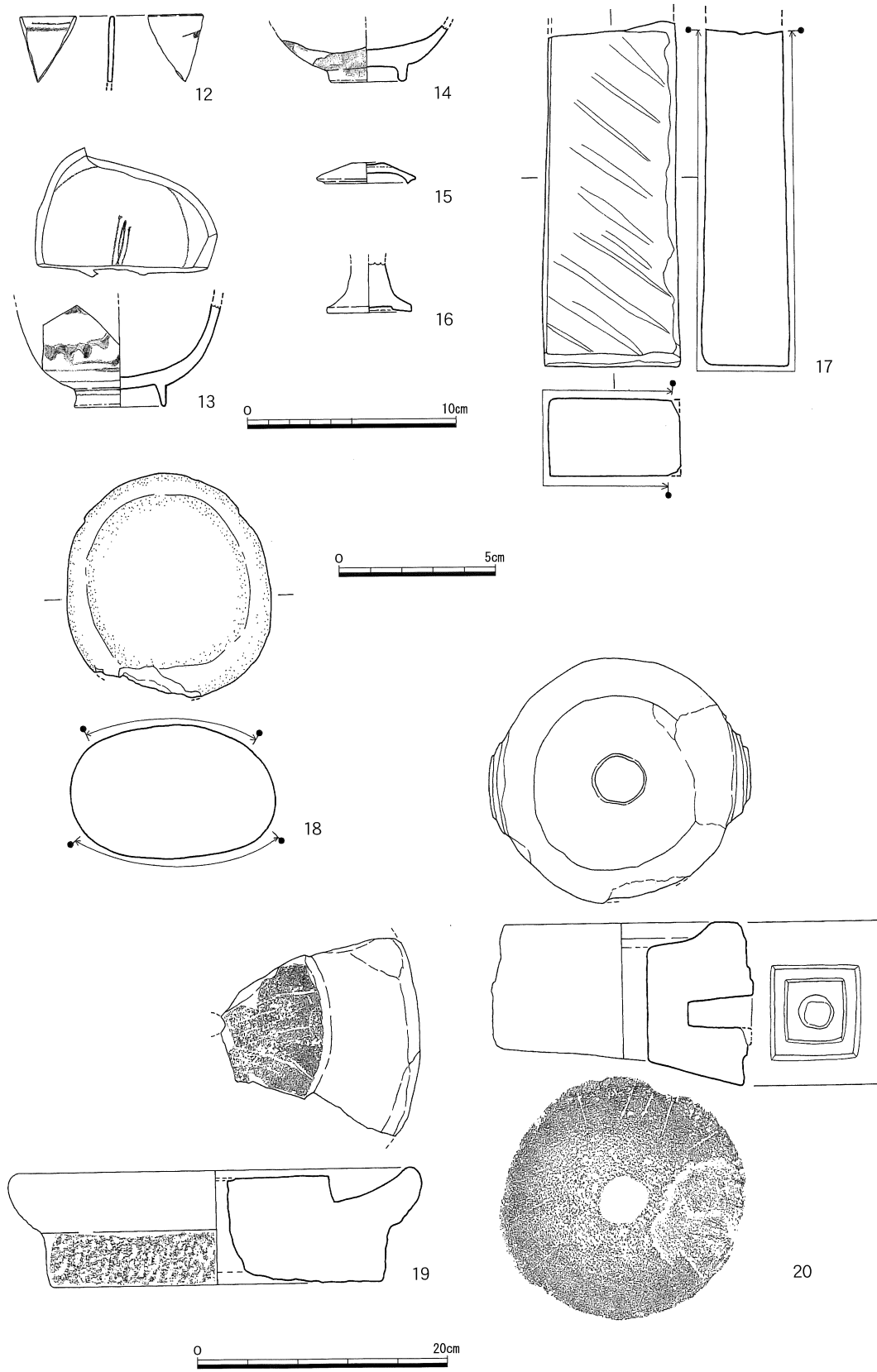


6~8はS-001出土遺物



9~11はS-004出土遺物

第18図 石田横穴墓群 2次調査出土遺物実測図1 (S=1/3. 1/4. 1/10)



12~20はS-010出土遺物

第19図 石田横穴墓群 2次調査出土遺物実測図 2 (S=1/3. 1/4. 1/5)

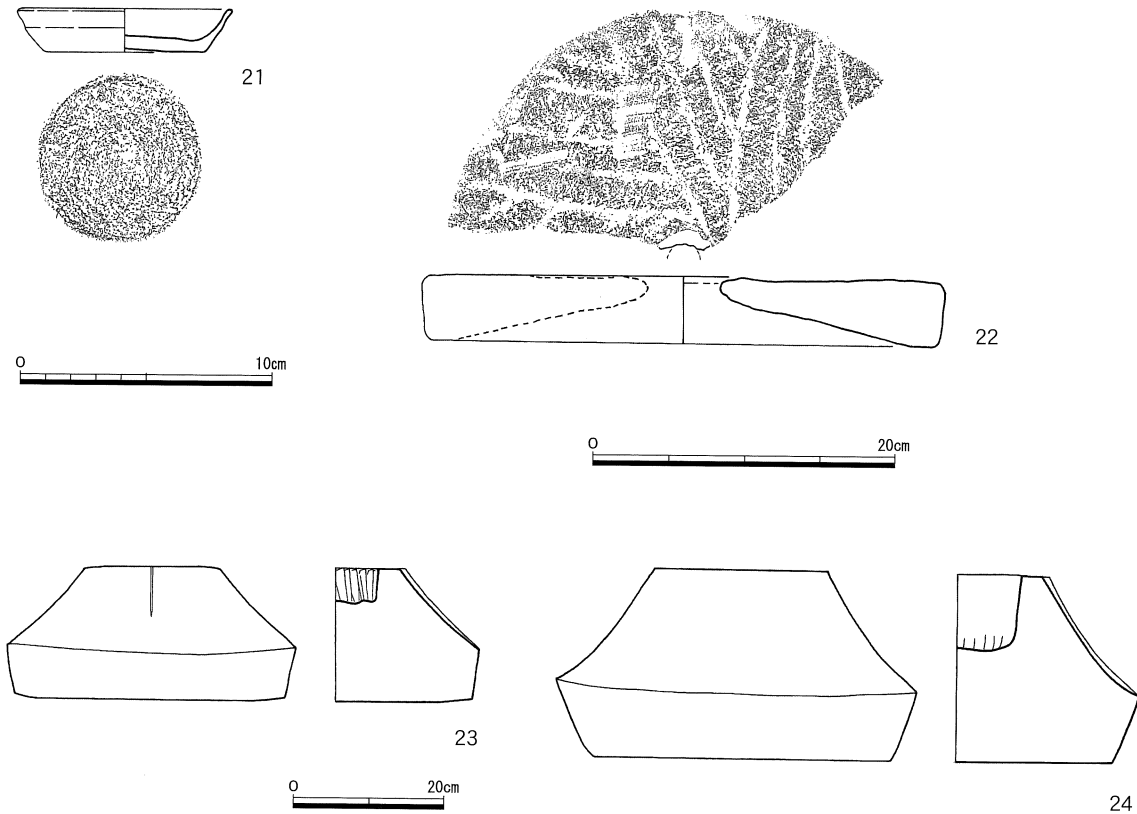
S-010 (第17・19図)

S-004からS-006の前面には、畑より一段高い道状遺構があり、その規模は幅0.7m～1.2mで、約25mにわたり確認できた。そのうち一部に土留めのための石列が残っていた。幅0.4m～0.8m程度の石を1列に並べたもので、前と上の面を合わせて造っている。明治時代の字図によれば、崖際に里道が通っていたことがわかり、この石列は道の南側に敷かれたものであろう。

12～14はいずれも染付碗。18世紀後半のもの。15、16は白磁の仏具の脚と蓋である。17は砂岩製の砥石で、3面を使用している。18の敲石は安山岩製、大きさは7cmほどで重さは約300gある。19は凝灰岩製の下臼、擦面の径は約18cm、台の外面はノミ痕を残す。20は安山岩製の上臼で、底径は約20cmある。両側に棒を刺して回すための孔が開いている。

表採遺物 (第20図)

21は土師質土器杯で、底部は糸切り。口径8.4cm、底径6.4cm、器高1.7cmを測る。15～16世紀代のもの。22は安山岩製の下臼で、その復元口径は34.5cm。23、24は五輪塔の火輪で、23の上部には中心線が刻まれ、柄穴にノミ痕を残す。大きさは38cm程度。24も凝灰岩製で、大きさは48cm、高さ25cmほどである。



第20図 石田横穴墓群周辺石造物実測図3 (S=1/3. 1/5. 1/10)

第4章 小結

今回の石田横穴墓群の調査において、横穴墓としては2次調査区のS-005が確認できたのみであるが、その他については、(1)当初横穴墓として掘られたものであるが後世において再利用されたもの、(2)中近世以降に龕として掘られたもの、(3)近世以降掘られたものが考えられるが、土砂の崩落や後世の開発による現状変更が顕著であり、遺構の形状や出土遺物からでは、それらをきちんと区別することができなかった。

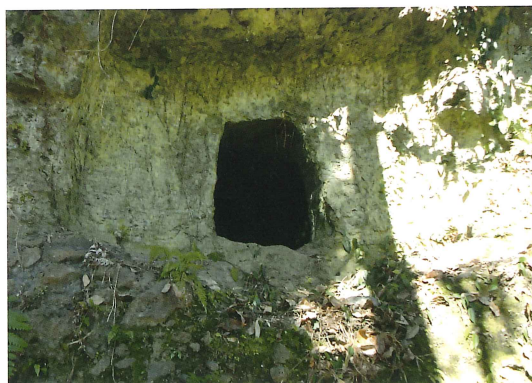
石田横穴墓群周辺には多くの横穴が周知されている。中九州道路朝地インター入口付近の大字下野の西側斜面においても4基の横穴墓が確認できる(下写真)。前庭、羨道部はないが、玄門は幅0.55m~0.73m、高さ0.72m~0.96mの規模であり、2段の掘込みをもつものもある。『朝地町史』によると大字下野には字狐塚59に13基、字姉井迫82に1基、字姉井迫93に3基、字姉井迫96に3基、字東193に1基、字東237に1基あるとされており、インター入口の横穴墓は姉井迫横穴7基のうちの4基であるが、当地は切り立った崖面にあり直下は崩落土で埋まった状態であることから、さらに周辺に広がっていることが考えられる。

石田横穴墓周辺は、大恩寺岩陰遺跡に始まり、狐塚古墳や多くの横穴墓、さらには中世の石造物など文化財が多く残されている地域であり、今後も同様の横穴墓が確認できる可能性が大いに残されている。

そこで、調査区周辺に残されている石造物について、ここで紹介する。

逆修碑(第21図)

板井迫字石田天狗松にある墓地の脇に建てられた江戸時代の石祠の裏に建っている。後世に地蔵等とともに、コンクリで固められており、原位置を保つものではない可能性がある。高さ96cm、幅31cm、厚さ18cmで正面及び側面は平滑に調整されている。正面上部



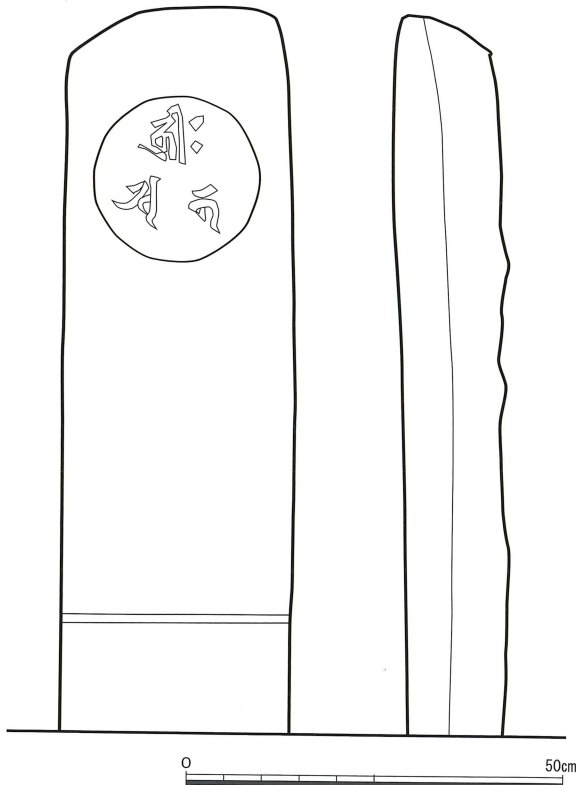
には、月輪の中にキリーク（阿弥陀如来）を主尊とする種子が描かれ、その下にカ？（地蔵菩薩）、サ（観世音菩薩）が並んで彫られており。種子の下に、「逆修善根主 浄永善男子 妙祐善女人 七分全得 妙圓」と造立の主旨が記され、左端に「岩亭禄五年壬辰仲春五日善根主誌之」とあることから、室町時代の逆修碑とわかる。正面下方の2条の横方向線刻下部は調整が粗く、これ以下を地下に埋めていたと仮定するならば、地上に覗く高さは80cmほどである。

庚申塔

逆修碑の下の畑の脇には、安永7(1778)年造立の庚申塔（右写真）が建っている。高さ約30cmの台石の上に、高さ67cm、幅31cm、厚さ11cmの塔があり、朱書きの線や赤い日が見られる。「安永七念戊戌天十二月四日代七」の銘がある。



庚申塔



第21図

石田横穴墓群周辺逆修塔実測図(S=1/10)



逆修塔

写真図版

調査区全景
(西に大恩寺)



1次調査 S001遺構



2次調査 S004遺構内部



写真図版 2 (石田横穴墓群)



上は 2 次調査 S005 遺構
下は 2 次調査 S003 遺構



2 次調査 S005 遺構内部



2 次調査 S010 遺構

写真図版 3 (石田横穴墓群)



6



7



8



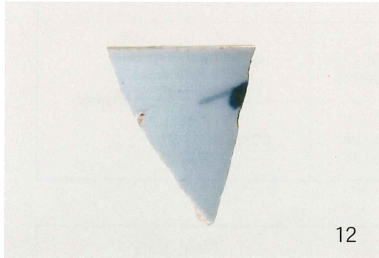
9



10



11



12



13



14



15



18



19



20



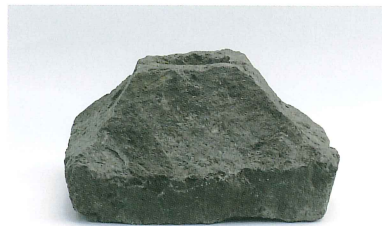
21



22



23



24

報告書抄録

ふりがな	いしだよこあなぼぐん
書名	石田横穴墓群
副書名	一般国道57号大野竹田道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	(3)
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第92集
編著者名	松本康弘
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-0152 大分市牧緑町1-61
発行年月日	2017(平成29)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしだよこあなぼぐん 石田横穴墓群	豊後大野市	44212	212354	33° 00' 14"	131° 26' 51"	1次 20120913~ 20130927	345㎡	道路建設
						2次 20151105~ 20151207	379㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	特記事項
石田横穴墓群	横穴墓・竈	古墳・中世・近世	石塔・陶磁碗	
要約	石田横穴墓群は、豊後大野市朝地町に所在し、今回の調査で1基の横穴墓が確認された。その他、中世の竈を2基検出した。出土遺物が少なく時期を特定できないが、その他にも横穴状遺構7期と道状遺構を調査した。			

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第92集

石田横穴墓群

一般国道57号大野竹田道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

2017(平成29)年3月31日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-0152

大分市牧緑町1-61

TEL097-552-0077

印刷 株式会社高山活版社

〒870-0943

大分市片島尻込301-1

TEL097-568-8227